



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨YMCAグローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	A・シャナヴァスカーン(インド)	「より良い世界のために、共に」 (Together for a Better World)
アジア太平洋地域会長	ジョウン・ウォン(香港)	「大きなインパクトを起こそう」(Make a Great Impact)
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「ワイズの方向性を見極める」(Our Future Direction)
あずさ部部长	ピーター・マウントフォード(甲府)	「めあて 望み」
甲府21クラブ会長	輿水順雄	「未来のために行動しよう」(Let's act for future!)

甲府21ワイズメンズクラブ
2024年10月会報

今月の強調テーマ

ASF

【今月の聖句】

「心のきよい人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう。」
マタイの福音書 5章8節 [選者] 荻野 清

10月 巻頭言



会長 輿水 順雄

厳しい暑さは相変わらずでしたが、9月は山中湖で開催された「ユースボランティアリーダーズフォーラム(YVL F)」、バザー実行委員会、バザーに向けての大根の種まき、柳町カフェでの第二例会、湘南・沖縄部新クラブ設立総会、多くのゲストを迎えての「ぶどうの丘例会」、「銀河鉄道の森」での昼食づくりなど多くの行事がありました。

YVL Fでは実行委員長の城田教寛さん(東京多摩スマイルクラブ)が51歳で急逝されました。城田ワイズの働きに感謝すると共に、天国で安らかに眠ることを祈っています。

第二例会は山梨YMCAの会場が甲府クラブと重なったため、会場を柳町カフェにして懇親の場としました。久しぶりに功刀ワイズが出席し、入退院・近況を報告してくれました。

恒例の「ぶどうの丘例会」は、秋の風を感じる素晴らしい好天の中開催。ユースリーダー本田生磨君の「ワイズ国際大会報告」、「ぶどうの丘の歴史」など学んだあと、美味しいバーベキューとワインを楽しみ、良き交流の場となりました。この例会の様子はビデオレターにしてIBCのアデレードクラブに送り、交流の一つにしたいと思います。

大切な報告があります。「子どもゆめ基金」に「銀河鉄道の森デイキャンプ」を応募したところ、助成金は減額されましたが採択されました。しかし、この実施にはいくつかの制約があります。デイキャンプを年内に複数回実施、参加者を公募して小中学生50名以上(80名予定)を集めなければならないなど。ワイズで最初の採択になるので、今後の道を拓くためにも何としても成功させましょう。

また、11月4日の山梨YMCAバザーに向けての準備の月となります。皆様のご協力をお願いします。

10月第一例会プログラム

2024年10月1日(火) 18:30~

会場：山梨YMCA 3階大澤英二記念ホール ベテル

司会 赤根 学ワイズ

1. 開会点鐘 輿水順雄会長
2. ワイズソング・ワイズの信条
奏楽 杉田博子ワイズ
3. 今月の聖句・一言 荻野 清ワイズ
5. 会長挨拶、ゲスト紹介 輿水順雄会長
6. ハッピーバースデー
7. ワイズディナー
8. 会員卓話 志村直毅ワイズ
9. YMCA 報告・諸報告
10. YMCA の歌
11. 閉会点鐘 輿水順雄会長

《10月の誕生者》Happy Birthday!

[敬称略]

(メン)

内田 良幸(10/3) 溝口 さと子(10/8)
佐藤 重良(10/12) 荻野 清(10/19)
市川 将来(10/23)

(メネット)

佐藤 令子(10/2 哲郎夫人)
松村 仁子(10/5 豪夫 夫人)
野々垣 悦子(10/5 健五夫人)



(仮)大和クリエイティブ Yサービスクラブ 設立総会

ブリテン委員長 野々垣和宏

(仮) 大和クリエイティブ Y サービスクラブ設立総会参加報告

▽日時：2024年9月14日(土) 18時～

▽会場：大和商工会議所

▽参加者：甲府21からは、輿水会長、佐藤東日本区直前理事、野々垣健五、野々垣和宏が参加しました。

戸塚クラブの消滅など、近年 クラブの減少傾向がありますが、その一方、やまなみクラブやそれに今回の(仮)大和クリエイティブ Y サービスクラブ設立総会が出来たことは喜ばしいことです!

まず、先日の城田ワイズ(東京多摩クラブ)のご急逝につき、黙祷が始まり、それから設立に向けての手続きや経緯の説明などが滞りなく進み、設立が承認されました。懇親会では皆さん各々と弁当を食べながら歓談しました。

この新クラブの、8人の新しいメンバーの方々がこれから盛り上げていこうとする熱意がひしひしと感じられました。甲府21でもイベントやその他、一緒に協力して行動することもこれから多々あることでしょう。

私個人としては、初めてクラブの設立総会というものに参加出来てよかったと感じました。



城田教寛さんを偲ぶ

野々垣 和宏



9月の第一例会で城田教寛さんの足跡を映像で紹介されていました。その中で城田さんがワイズメンズクラブに入会する切っ掛けとなったのが「オーケストラ」仲間の誘いで

あったことを知り、そして今回大和クリエイティブ Y サービスクラブの設立総会に参加した私は、嗚咽したのです。2019年2月に、東京町田スマイリングワイズメンズクラブにチャーター期メンバーとして入会。その後の活躍ぶりは、クラブ会計や青少年の活動支援、幅広いものでした。

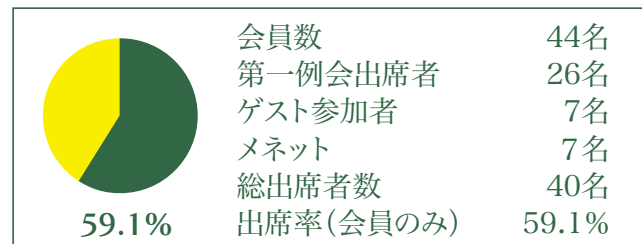
そして、何よりもスゴイのは、仕事&ワイズだけじゃなかった、ということ。オーケストラで演奏をして、また倫理法人会のモーニングセミナーにも出席をする。そして時には趣味の鉄道。今年の東日本区大会に出席して、鉄道を乗り継いで帰京したのは城田さんぐらいでしょう。

本当に楽しくて楽しくて、時間がいくらあっても足りないぐらいだった城田さん。少しゆっくりと、お休みください。 合掌

今後の予定

- 10/01 (火) 第1例会 18時半
- 10/15 (火) 第2例会 18時半
- 10/19 (土) あずさ部 部大会(甲府クラブ)
10時半登録開始 シャトレーゼホテル石和
- 11/03 (日) バザー前日準備
- 11/04 (月) 山梨YMCAバザー(第2例会)
- 11/19 (火) 第1例会 18時半

《9月例会の出席者》



【会計報告】

2024年9月末現在



項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
9月の合計	0	0	0	0
9月末迄累計	32,002	0	0	32,002
達成率	12.8%	0.0%	0.0%	8.0%

9月第2例会の報告

書記 荻野清

“柳町カフェ” 9月第2例会報告

9月第2例会は、『ぶどう棚下例会』が9月第3週のため、第2週の9月10日へ移行しました。久々の柳町カフェでの開催に、メン17名・メネット2名の方々が参加した懇親の集いでした。

活き活きとした雑談が心地よく、「今後の第2例会は、この形がベターでなくベストだ」という意見が多く、“柳町カフェ”オーナーへ各月一回の開催を打診中です。

記：荻野



9月第1例会「ぶどう棚下例会」の報告

書記 荻野清

日時：2024年9月21日（土）11：00～

会場：勝沼ぶどうの丘

当クラブの恒例『ぶどう棚下例会』は、9月21日（土）11時から甲州市の“勝沼ぶどうの丘”において、輿水会長の開会点鐘により、メン21名・メネット7名及びゲスト17名が参加し、総勢45名で開催された。

今回のゲストは、あずさ部の東京八王子クラブ5名及び東京サンライズクラブ1名・東新部の東京多摩スマイルクラブ1名・富士山部の熱海グローリークラブ2名・北東部の宇都宮東クラブ1名及び石巻広域クラブ1名とその友人3名と東日本区の広域から参加いただいた。また、山梨YMCAから中田総主事をはじめ4名の参加があった。

過日、タイ国チェンマイで開催されたワイズメンズクラブ国際大会でのユース報告を山梨YMCAユースリーダーの本田生磨君が、スライドを通じて発表をおこなった。彼の今後のユース活動が、実り多いものになり、YMCA活動のさらなる理解に繋がり、近未来の方向選択に期待したい。

ここで、先日開催されたYVLF山中湖のプログラム中に急逝されたYVLF実行委員長の故城田教寛氏に対し、野々垣健五ワイズの追悼話と画像により、生前の姿を振り返ったことを報告いたします。

記念写真の撮影後、懇親会場である『BBQハウス』へ移動、国際協会T.O.F.委員長の田中博之ワイズの乾杯ご発声で宴に入る。新鮮な牛肉・豚肉・ソーセージ&野菜に加え、ワイン・ビール・ソフトドリンクで杯を交わす中での、久々の騒々しい賑わいがあった。また、BBQハウスのデッキ会場は、太陽と溶岩板の暑さ、さらにその熱を拡散する大扇風機の複合的暑さに見舞われ、体調不良の方も…来年の開催場所選定に苦慮との執行部談。

<次ページに写真を掲載してありますが、全ての方の写真ではないことをご了承ください>



飯田 剛 荻野 清 (右)



岡垣 修武さん (八王子ゲスト)



ユース 本田 生磨



山梨 YMCA 中田総主事



GUEST 前川和賀子さん



日野 峻 さん (石巻広域)



GUEST 千葉 英子さん



GUEST 橋本 晶子さん



久保田 貞視 さん (八王子)



清水 公一



松村 禎夫 (立ち姿)



山口 了



輿水 順雄 会長



荻野 清 書記



田中博之さん (多摩スバル)



松村 保乃

荻野 優子



野々垣 悦子

山縣 洋子



薬袋 けさみ



菰淵 光彦さん（東京ツライズ）



薬袋 勝



江口英雄、野々垣健五 寺田喜長
江口三代子、寺田岸子



山縣 讓治



花輪 宗命さん（八王子）



(左から) 薬袋、菰淵 (サライ)、山縣、松村禎夫



小口 多津子さん (八王子)



鈴木伊知郎さん (宇都宮東)



後藤 哲夫



志村 直毅



長谷川 あや子さん (八王子)



小林真弓さん (メット)

小林隆さん (東日本区事務所長)



福田奈里子さん (山梨YMCA)



寺田 喜長



江口 英雄



野々垣 健五



スーパードライ



清藤 城宏



城田さんを悼む (野々垣 健五)



水越 正高 副会長

「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]
グウェン・R. P. ノルマン 著
後藤哲夫 訳
One Hundred Years In Japan, Part I: 1873-1923

後藤 哲夫

第 9 回 「鉄道之恩恵による伝道活動」

当時の伝道活動に大きな影響を与えたのは鉄道であった。

本文には次のように記されている。

あらゆる経済的発展の中で、宣教師が特に注目したのは鉄道網の拡張だった。初期の鉄道が当時の人々にもたらした大変な安堵感は想像しがたいものであった。熱狂のあまり、これに乗れば全国津々浦々まで運んでくれると考えた。現代と較べたら居心地が悪いが、古い形の堅い座席の鉄道の客車は、従来の馬車（スプリングはあったとしてもごくわずかの駅馬車風の）やカゴ（輿）からみたら大きな進歩を示していた。馬車やカゴは、鉄道の急速な発展があってもなお広い地域でまだしばらく人々の唯一の輸送手段となっていた。ジョン・スコット博士は一八九九（明治三二）年来日し、マクドナルド博士と一緒に日下部の献堂式に出席するため山梨に出かけた。鉄道の終点八王子から馬車に乗り換えたが、スコットは、自分の五フィート七インチ [約一七三・七センチ] の体格には馬車はとても窮屈であったと述べている。さらに、彼はマクドナルドが靴を脱ぎ靴下だけで堂々たる「六フィート [約一八二・八センチ] の体」を伸ばすこともできず、他の四人の乗客と小さな空間に閉じこめられた状態だったと付け加えている。一台の「馬車」の定員は通常六人で、各自が六分の一の代金を払った。居心地の悪さも運賃でいくらか救われた。「運転手は私たちの背丈をじっと観察し、長さを測り、一その点ではさすがに熟練していたが—『これでもう一杯だ』と宣言し、それ以上は乗せようとしなかった」。しかし、彼は丸々六人分の通常の運賃を要求した。一九〇三（明治三六）年に鉄道線路は甲府まで敷設された。しかし、本線はすでに早くから工事が進められていた。敦賀を通り南に抜ける路線は、一八八九（明治二二）年までには神戸まで達していた。敦賀から日本海沿岸を上って行くには、通常舟に頼る以外になかったが、鉄道が一八九六年七月二日福井まで開通するようになった。だから、東京から福井まで二〇時間足らずで着くことができた。さらに金沢や富山まで線路を延ばす計画が検討されていた。東京から長野を通り日本海に達する本線は一八九一年頃には直江津にまで達していた。

鉄道の発達によって人々の生活は大きく変化した。1899（明治32）年東京—八王子間を蒸気機関車で行くことが出来るようになった。

同年、日下部教会の献堂式に、ジョン・スコット博士（カナダ・メソジスト宣教師協会会長）とデヴィッドソン・マクドナルド（来日最初の宣教師、日本年会会長）が出席した。八王子から山梨へは、急斜面の難所が待ち構えていて鉄道はまだ完成していなかった。目的地までは馬車に頼るしかなかっただろう。しかし、その馬車がレール上を走る鉄道馬車だったかどうか詳しくは分からない。それでも4年後の1903年には、甲府まで鉄道が開通したのは、めざましい早さであった。当然生活に大きな影響を及ぼした。12月に山梨教会が創立したのは、この鉄道開通のおかげである。これまで静岡から富士川沿いに入ってきたキリスト教も東京と直結し名士が次々と来甲した。

カナダ・メソジスト教会宣教師たちは、急速な発展を遂げた東海道本線によって、北陸、敦賀から日本海沿いの福井、金沢、さらに直江津まで伝道を開始していた。長野へは直江津から南下する路線が利用された。地理的には北陸に金沢部ができ、内陸に長野部ができたことになる。初期のカナダメソジストの日本伝道を俯瞰すると時計の右回りに進んでいった感がある。一方、鉄道之恩恵を受けられない僻地の人々のもとに赴き、苦勞して伝道活動を続けた、宣教師や婦人伝道師の働きは、重要で特筆に値するものだと私は思う。

ブリテン委員長 野々垣和宏です。

今月号のコラムは、伝道と鉄道という実に興味深いものです。日本国内では1889年に新橋から神戸まで達する鉄道が敷設されていた。ではその当時のカナダはどうだったのだろう、と興味の対象はカナダ鉄道事情に向けられます。実はほぼ同時期にカナダでは大陸横断鉄道が出来上がっていたようです。1891年にモトリオールからセントジョンズをインターナショナル・レールウェイ・オブ・メインが、実に大西洋から太平洋を結んだ、ということです。

後藤先生の書物を読みながら、どうやってカナダから日本へやって来たのだろう、という疑問が頭の中にずっとあったのですが、これを知って合点がきました。カナダ国内は、鉄道で移動したのではありませんか？

洋の東西を問わず、鉄道網の発達、人々の移動を容易にし、そして宗教すら運ぶことが出来たということに、ビックリするとともに、それが「飛行機」ではなかったことに、また新たな疑問が浮かんでくるのです。

ペンリレー

ブリテン委員 山本 俊一

ブリテン委員会野々垣委員長より、急遽ペンリレーを書くようにと仰せつかりましたので、駄文にて失礼致します。

今回飛び入りの山本がここに書くことではないのですが、題して「ワイズの繋がり」ということを述べたいと思います。

まずは、野々垣和宏さんに随行し、仕事で仙台に行った時のことです。たまたま所要先の近くに青葉城クラブ涌澤さんの会社があったので、当日朝、新幹線に乗る直前にメール。「甲府21の山本です。今日仙台行くけど、時間あったらお茶でもどうですか」。マッハの速さで返答があり、駅まで迎えに来て頂き、涌澤さんの会社にお邪魔。まったりと小一時間ぐらい四方山ばなしに花が咲いたので。青葉城クラブに昨年ネパールの方が入会した話。例会の時に赤ん坊の命名報告をする話。マンションの理事長になった話。普通、初対面で出来るような話ではないのですが、ワイズ繋がりということで、居心地良くお話しが出来ました。有り難うございます。

次に、私の大学時代の友人の話。卒業して40年近くになりますが、久々にお問い合わせが来て、一緒にビールを飲みました。その時にひよんなことからワイズの話になり、私の友人は高校の英語の先生なのですが、埼玉県の教育委員会からいきなり「英語」で電話があったことを聞いたのです。「あなたたち英語の先生なんだから、英語で会話できるわよね・・・」そんなこと、言いそうな人って誰だろう。なんて思って居たら思い当たる節が。利根川恵子さん？「当たり」。ワイズ繋がりて知己を得られた方が、仕事をなさる姿を垣間見た気がします。そして何よりもビックリしたのは、その彼の奥様が、某クラブの会長の娘さんだとか。ただ、そのクラブは3名で大変苦労されているので、彼には入会するように、という指令は出ていないとか。「ワイズって赤い三角のマークのあれでしょ」とジャガイモファンを買ったりしているようです。

最後に、甲府21の後藤先生の話。初めてお目にかかったのは、「らくすい」という生蕎麦処です。私が入会する前でしたが、仕事関係で昼を食べに行ったときに、奥様と一緒に来られていました。ちょっと近寄りがたい、キリリとした方で、ああ学校の先生なんだろうな、とっていました。その後私が甲府21に入会をし、ひよんなことから後藤先生が翻訳した文章を書きためている、ということを知りました。詳細は端折りますが、昨年先生はカナダ人宣教師「日本での百年」を出版され、そのお手伝いを少しさせて頂きました。本来であれば、とても面と向かってお話しなどできる方ではないのですが、ワイズだから、ということいろいろ私の提案に耳を傾けて下さいました。そして10月6日の日曜日。後藤先生は軽井沢で講演をなさいます。もちろん私も聞きにいけます。学者先生の講演ではなく、ワイズの繋がり先生の講演ですから。「あなたもワイズですか」というキーワードは、バリアを下げてくれます。試してみてください。

◆YMCA便り◆

「つながりによる喜びと希望を」

総主事 中田 純子

秋も深まり、ようやく秋らしさを感じるようになりました。2024年のオリンピック・パラリンピックが先月無事に終了しました。世界中のアスリートたちがその限りない可能性を示し、私たちに大きな感動を与えてくれました。彼らの姿勢から学ぶことは、すべての人が互いに支え合い、共に生きる社会、つまり「地域共生社会」を実現するための大切なヒントです。

山梨YMCAも障がいの有無や年齢、国籍を問わず、全ての人が共に成長し、自己の可能性を發揮できる環境の提供を目指しています。そんな中、9月6日から8日まで東京YMCA山中湖センターにて行われた東日本区ワイズメンズクラブ主催の「ユースフォーラム」実施中に、私たちの大切な仲間である城田氏が急逝されました。山梨の病院に搬送されましたが、残念ながら帰らぬ人となり、ご家族のご意向もあり、お別れの会が執り行われ、この地で荼毘に付されました。城田氏は、長年にわたりワイズメンズクラブを通じてYMCAの活動を支援し、特に若者たちの「ユースエンパワーメント」に力を注いでこられました。彼の存在は、若者たちの成長と共生社会の構築において欠かせないものであり、その精神は次世代に引き継がれていくことを願います。

また、この秋も、ワイズメンズクラブの皆様のご支援により、地域に貢献するさまざまな活動が行われます。11月4日に開催されるYMCAチャリティーバザーでは、皆様の協力により、多くの地域の方々となつながり、支援の輪を広げることができるでしょう。また、「銀河鉄道の森」でのデイワークの拡充にもご協力いただき、自然の中での共生社会を実現するための取り組みが進んでいきます。この活動は、学び合う機会を提供し、共生社会の実現に向けた重要な一歩となっています。ワイズメンズクラブは、年齢や国籍を問わずYMCAを支える団体として、地域共生社会の構築に貢献しております。

共生社会とは、異なる背景を持つすべての人々が互いを尊重し、認め合いながら成長し、共に生きる社会です。このビジョンを実現するため、YMCAとワイズメンズクラブが協力し、これからも共に歩んでいくことを希望いたします。そして、ワイズメンズクラブの皆様には、これまで以上にYMCAの良さを発信していただきたいと願っています。YMCAの活動が多くの方に知られ、その理念がさらに広がることで、共生社会の実現が一步近づくと感じています。皆様の力強い発信が、地域や社会全体に対してポジティブな影響を与え、未来を担う若者たちの成長を後押しできることでしょうか。ワイズメンズクラブの皆様へ心からの感謝を申し上げ、これからの活動でも引き続きご協力を賜りながら、共に地域のために力を合わせていけることを願っています。